## **各市の取組（各市の中でのトピックス的な取り組みについて）　　　　　　　　　　　　　　　大阪市保健所**

|  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- |
| 平成２５年新登録結核患者数 | 　１，０５８人 | 平成２６年新登録結核患者数(暫定値) | １，００４人 |
| 　　　　　　　　結核り患率 | 　　　３９．４ | 結核り患率(暫定値) | 　　３７．４ |

|  |
| --- |
| 【題】　リスクグループ健診と外国人対策、西成特区構想における結核対策 |
| 【内容】* リスクグループ健診

　　従前から実施していた日本語学校・介護老人保健施設に加え、平成２５年度より区老人福祉センターでの　結核健診・健康教育も実施。　　結核健診では車いすのままレントゲン撮影が受けられる検診車を導入し、高齢者でも健診を受けやすい環境　を整備した。また要精密検査者については、より確実に受診につなげるよう、保健所での紹介状の作成や学校・　施設関係者との連携を図っている。　　健康教育についても対象者がより関心を持てるような内容で行い、受診者を増やす努力をしている。　平成２５年度実績

|  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- |
| 　 | 回数（受診者数） | 発見患者数 | 患者発見率 |
| 日本語学校 | 23回（2,105人） | 　　　５人 | 0.24% |
| 介護老人福祉施設 | 21回（1,279人） | 　　　１人 | 　　0.08% |
| 区老人福祉センター | 15回（　385人） | 　　　０人 | 　　0.00% |

* 外国人対策

　パイロット事業として平成26年９月1日から外国人患者の面接時、必要な場合に通訳派遣を行っている。　　また治療途中に帰国する外国人患者について、治療中断のリスクを下げるため、結核研究所と連携して帰国後の医療機関紹介事業を行っている。　○西成特区構想による結核対策→平成２５年度より西成区が企画・実施　　実績　【平成２５年度・26年度（４月～１１月）】

|  |  |  |
| --- | --- | --- |
|  | 平成２５年度（4月～3月） | 平成26年度（４月～11月） |
|  | 受診者数 | 発見患者数 | 患者発見率 | 受診者数 | 発見患者数 | 患者発見率 |
| 区保健福祉センター結核健診（毎日実施・生活保護新規申請者が中心） | 2,185人 | 12人 | 0.55% | 1,683人 | 5人 | 0.30% |
| 区保健福祉センター分館結核健診（あいりん地域内にある。毎日実施） | 1,933人 | 24人 | 1.24% | 1,388人 | 11人 | 0.79% |
| あいりん地域内健診（検診車による） | 2,556人 | 21人 | 0.82% | 1,883人 | 6人 | 0.32% |
| 医療機関（６５歳以上） | 　446人 |  0人 | 0.00% |  535人 | 0人 | 0.00% |
| 医療機関（区北東部） |  605人 |  1人 | 0.17% |  425人 | 4人 | 0.94% |

 |

## **各市の取組（各市の中でのトピックス的な取り組みについて）　　　　　　　　　　　　　　　　　堺市保健所**

|  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- |
| 平成２５年新登録結核患者数 | ２２２人 | 平成２６年新登録結核患者数(暫定値) | １８４　人(速報値) |
| 　　　　　　　　結核り患率 | ２６．４ | 結核り患率(暫定値) | ２１．９(速報値) |

|  |
| --- |
| 【題】　堺市の結核対策について |
| 【内容】「堺市の結核対策の推進に向けた基本目標と具体的戦略について」（平成２３年３月策定）に基づき、各種結核対策の推進に取り組んでいる。　▶ 対象期間：平成２３年度から平成３２年度までの１０か年　▶ 基本目標：平成３２年（２０２０年）までに堺市の結核罹患率を「１８以下」に低減させる　　　　　　　《結核罹患率の推移》

|  |  |  |  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- |
| 年　次 | 平成21年 | 22年 | 23年 | 24年 | 25年 | 26年(速報値) |
| 結核罹患率 | 23．8 | 28．5 | 24．3 | 27．9 | 26．4 | 21．9 |

　▶ ５つの具体的戦略及び対策項目別目標と実績

|  |  |  |
| --- | --- | --- |
| 具体的戦略及び主な対策項目 | 目　標 | 実績(25年) |
| １．適正な治療と患者管理 |
|  | ○治療失敗・脱落率 | 1．0％ | 0．0％ |
|  | ○対面型ＤＯＴＳの実施率（喀痰塗抹陽性患者） | ８０％ | 96．8％ |
| ２．早期患者発見 |
|  | ○接触者健康診断実施率（直後～２か月後） | １００％ | 97．8％ |
|  | ○定期健康診断実施報告書提出率（病院・学校・施設従事者） | １００％ | 92．9％ |
|  | ○届出の徹底（診断日内の届出） | ９０％ | 77．7％ |
| ３・ＢＣＧ接種 |
|  | ○ＢＣＧ接種率（生後１歳まで） | １００％ | 83．1％ |
| ４．普及・啓発の推進 |
|  | ○結核精度管理研修会の開催 | 継続強化 | 年１回 |
| ５．情報の収集、調査、分析、評価 |
|  | ○結核対策評価検討会議の開催 | 定期開催 | １回開催 |

▶ 主な取組内容　　○高齢者施設通所者健診の実施高齢福祉担当部局と連携を図り、デイサービス利用者を対象に平成２6年度は協力施設3施設で実施。平成27年度も継続予定。　　○ハイリスク層に対する結核健診の実施ハイリスク層に対し、患者の早期発見、感染の拡大防止を図るため、平成２6年度は商店街従業者を対象とした健診を計画している。○結核地域医療連携ネットワークの構築とＤＯＴＳの強化　　　・平成１８年度から地域ＤＯＴＳ支援事業をスタート。平成２４年１月から全新登録患者へ対象を拡大している。薬局ＤＯＴＳの充実を図るべく、地域薬剤師会との連携強化に努めている。　　　・結核病床減の動向に対応すべく、地域医療連携ネットワーク構築に向けた検討を進めていく。　　○結核指定医療機関講習会及び結核精度管理研修会の開催○診療所従事者の定期健康診断実施報告書提出率の向上平成２５年度から個別勧奨を実施しており、提出率の向上に寄与している。《診療所における定期健康診断実施報告書提出状況》　平成27年1月15日現在

|  |  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- | --- |
| 種　別 | 平成23年度 | 24年度 | 25年度 | 26年度 |
| 対象施設数 | 705 | 723 | 724 | 723 |
| 提出数 | 38 | 289 | 420 | 211 |
| 提出率 | 5．4% | 40．0% | 58．0% | 29．2% |

 |

## **各市の取組（各市の中でのトピックス的な取り組みについて）　　　　　　　　　　　　　　東大阪市保健所**

|  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- |
| 平成２５年新登録結核患者数 | 　　　117人 | 平成２６年新登録結核患者数(暫定値) |  ９８人 |
| 　　　　　　　　結核り患率 | 23.1 | 結核り患率(暫定値) | 19.4 |

|  |
| --- |
| 【題】　東大阪市の高齢者への結核対策の取り組みについて |
| ＜２６年の新登録患者の状況＞

|  |  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- | --- |
| 　 | 新登録（人） | 塗抹陽性率 | 潜在性結核感染症（人） | 罹患率 |
| Ｈ２４ | 　１０５ | 　４０．９ | 　　　４４ | 　２０．７ |
| Ｈ２５ | 　１１６ | 　４６．６ | 　　　４９ | 　２３．１ |
| Ｈ２６ | 　　９８ | ３７．８ | 　　　４８ | 　１９．４ |

　　＊２６年は新登録患者、罹患率の低下した。　　＊新登録患者の中で、小児の患者１名（６歳）があった。また妊娠により胸部エックス線検査が遅れ、発見の遅れにつながった患者が２名あり、どちらの事例も家族内や職場関係等に感染が拡がっていた。＊２６年の新登録患者のうち、６５歳以上の患者は５５人（５６．１％）、８０歳以上の超高齢者は３１人（３１．６％）となっている。　　＊結核死亡は６名。また８０歳以上の新登録患者のうち、登録後３カ月以内に死亡した患者は１１名で基礎疾患の悪化などが原因であった。＜２６年に新たに取り組んだもの＞1. 高齢者施設の健診実施状況の実態を把握する目的で、結核対策特別推進事業として市内の有料老人ホーム

４５施設に対してアンケート実施。―アンケート結果―* アンケート回収２９施設（回収率６４．４％）
* 入居者人数　９人～７３人
* 入居時の胸部エックス線検査の実施について

実施している５５．２％　　　実施していない３７．９％* 入居者に対しての定期的な胸部エックス線検査の実施について

施設で実施３７．９％　　個人で実施３１．１％　　実施していない３１．０％* 入居者の結核既往歴の把握について

把握している８９．７％　　把握していない１０．３％* 施設職員の定期的な胸部エックス線検査の実施について

実施している９６．６％　　実施していない３．４％* 施設職員に対しての結核研修の機会について

ある３７．９％　　ない６２，１％* 保健所による胸部エックス検査実施の希望について

　　　　希望する６５．５％　　希望しない３１．０％* 胸部エックス線検査を希望しない理由、または希望はするが実施の際に困難と思われる理由について

・要介護者が多く、健診車への移動が困難。・認知症のため、言葉や指示が理解できない人が多い。・介護サービスを利用しているため、調整が必要。・施設職員の応援体制がとれず、安全確保が困難。・駐車スペースがない等。1. アンケート結果により、健診機会がなく健診実施希望があった３施設に対して、胸部エックス線検査を実施
* 実施方法　…　結核予防会に委託（ストレッチャー付き健診車にて１回、通常の健診車にて２回実施）
* 受診者　　…　６１名（うち要精検者６名）
* 健診実施施設職員に対して結核についての啓発実施予定

＜２７年に取り組む予定のもの＞1. 高齢者への結核対策の取り組み継続

結核の知識の普及、結核健康診断実施報告書の提出の徹底1. 関係機関との連携により、患者支援を強化

ＤＯＴＳ協力機関を拡大し、患者の身近なところで治療を見守り、治療成功に導く体制を作る。＜課題と思われることへの取り組み＞○結核の早期診断のために、地域の医療機関との連携を強化する。　　個々の患者のフォローを通して医療機関と連絡をとり、結核指定医療機関講習会等により連携強化を図る。　　　　　　　 |

## **各市の取組（各市の中でのトピックス的な取り組みについて）　　　　　　　　　　　　　　　豊中市保健所**

|  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- |
| 平成２５年新登録結核患者数 | 　　　７６人 | 平成２６年新登録結核患者数(暫定値) | ８４人 |
| 　　　　　　　　結核り患率 | 19.3 | 結核り患率(暫定値) | 21.3  |

|  |
| --- |
| 【題】　　中核市移行後3年目の取り組みについて　 |
| 【課題】　豊中市の新登録結核患者のうち7割が60歳以上の高齢者である。（平成25年53人、同26年66人（暫定値））　患者数の変動はあるものの、塗抹陽性者数の変化がない。（平成25年38人、同26年33人（暫定値））　コホート検討から、施設向け、市民向け、医療機関向けの啓発の必要性があると考える。【内容】　　・２６年に取り組んだもの　　　（新規）医師のための豊中市結核研修会　　9月29日（土）参加者　６３人　　　　　　　所長「結核の基礎知識」医師「結核の早期診断を目指して－院内感染対策の観点から－」　　　　　　　保健師「保健所が行う結核患者支援」診療放射線技師「胸部エックス線写真の精度管理について」　　　　　　　（アンケートより）診療の経験　あり　70.8%　うち　対応で困ったことがある　45.8%　　　（新規）結核健診実施結果報告の勧奨医師会・歯科医師会・薬剤師会に加えて、助産所への勧奨を行った。　　　（新規）医療法に基づく立ち入り検査に先立つ感染防止対策マニュアルの提出　　　　　　　結核患者発生時の対応が的確にできるものかどうかの確認を行い、修正を返した。　　　　　　　　多かったもの：情報の更新ができていない。（法律の未変更、感染の判定の方法、保健所の連絡先等）　　　（継続）介護保険事業者連絡会（訪問部会、全体会）にて年１回の健診の必要性について啓発　　　　　　　　　　（継続）老人福祉センターにて結核健診　14人受診　要精検　５人　経過観察　1人　　　　　　・今までも継続的にしているものであるが、27年度に改善をして効果を上げようと考えているもの　　　　高齢者施設向けの啓発をより積極的に行う。　　　　　福祉指導監査室が施設の監査に入る際に健診の必要性を説明してもらう。　　　　全数ＤＯＴＳ（服薬支援）の完全実施　　　　　平成26年10月～非常勤職員の雇用を行い、全数ＤＯＴＳを実施しつつある。　　　　　平成27年以降は職員の確保に伴い、ＤＯＴＳの完全実施を行う。　　・事業の組み立てだけでなく、人材のスキルアップにつなげるようなもの　　　　中核市移行後3年間における結核担当の経験者は市保健師全体の14％に過ぎない。（57人中8人）　　　　市全体の保健師が集まる保健師合同研究会で、結核の業務や啓発してほしいことの説明を行い、各配属先で結核対策の視点を持ってもらう。 |

## **各市の取組（各市の中でのトピックス的な取り組みについて）　　　　　　　　　　　　　　　高槻市保健所**

|  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- |
| 平成２５年新登録結核患者数 | 　　　57人 | 平成２６年新登録結核患者数(暫定値) | 68人 |
| 　　　　　　　　結核り患率 | 　　　16.0 | 結核り患率(暫定値) | 19.1 |

|  |
| --- |
| 【題】　高槻市における結核対策について |
| 【現状】高槻市の結核罹患率は平成24年まで順調に減少し、国の目標値（平成27年までに15.0以下）を下回っていたが、平成25年に増加に転じ、平成26年は更に増加した。患者の5割以上が高齢者であり、偏在傾向に変化はないが、若年層や壮年層からの発生も増加傾向にある。ただ、高齢者が過半数を占めている状態が継続しているため、発見が遅れやすい高齢者結核を中心に早期発見・早期治療を各医療機関へ啓発している。○新登録結核患者の年代別人数（割合%）

|  |  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- | --- |
|  | ～39歳 | 40～69歳 | 70歳以上 | 計（人） |
| 平成24年 | 7（14.3） | 16（32.7） | 26（53.1） | 49 |
| 平成25年 | 5（8.8） | 12（21.1） | 40（70.2） | 57 |
| 平成26年（暫定値） | 8（11.8） | 20（29.4） | 40（58.8） | 68 |

【現状の取り組み】①結核指定医療機関講習会の開催継続・特に管内総合病院には感染制御部門に向けて参加を勧奨している。また薬局DOTS導入の可能性を見据え、平成25年度から薬剤師会を通じて市内薬局への参加勧奨もしている。・平成26年度　テーマ「結核の診断遅れの事例を振り返って～診断と治療のポイント～」　　　　　講師：刀根山病院　呼吸器内科医師　藤川　健弥氏　参加人数　51人　参加機関　病院17ヶ所、診療所14ヶ所、薬局13ヶ所　参加職種　医師9名、看護師15名、薬剤師13名、その他コメディカル等14名②介護従事者結核講習会の開催継続高齢者結核の増加に伴い、早期発見に焦点を当てた普及啓発を実施。加えて、その年のトピックスを反映させたテーマを用いて開催している。・平成26年度（平成27年2月10日開催予定）　テーマ「理屈がわかる！結核の基礎知識と早期発見のポイント」　　　　　講師：大阪医科大学附属病院　呼吸器内科医長　池田　宗一郎（医師）　昨年度は参加人数を制限し、講義に加えて事例を用いたグループワークを実施したが、今年度は規模を拡大し、より多くの対象者が参加できるように講義形式の講習会を企画している。講義内容の理解が深まる事例を複数紹介し、結核をより身近に捉えやすいように考慮した。③高槻市の結核の現状についてチラシ作成（「高槻市の結核2014」）毎年チラシを作成し、市内結核の現状や早期診断のポイントを管内全医療機関に周知。平成25年度からは薬剤師会へも会員に対する配布を依頼し、更なる周知を図っている。【今後の課題と取り組み】①地域の医療機関との連携強化早期発見のための診断能力の向上や結核治療の適正化を図り、院内感染対策の意識を髙めるため、より効果的な啓発の検討が必要。②全数DOTSの継続と協力機関の拡大質を重視したDOTS事業の継続を行いつつ、支援機関の増加のため、講習会等で関係機関にDOTS事業の理解を深めてもらうことで、協力を仰いでいきたい。③市民への啓発基本的な知識の理解や、有症状者への早期受診と早期発見を勧奨するための、市民向けチラシの作成を検討。 |

## **各市の取組（各市の中でのトピックス的な取り組みについて）　　　　　　　　　　　　　　　枚方市保健所**

|  |
| --- |
| 　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　枚方市保健所 |
| 平成２５年新登録結核患者数 | 　　　66人 | 平成２６年新登録結核患者数(暫定値) | 59人 |
| 　　　　　　　　結核り患率 | 16.1 | 結核り患率(暫定値) | 14.5 |

|  |
| --- |
| 【題】　枚方市の主な取り組みについて |
| 【内容】<管内の状況> ＊H26は概数値

|  |  |  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- | --- | --- |
|  | 新登録数 | 罹患率 | 塗抹陽性患者数 | 塗抹陽性罹患率 | 60歳以上 |
| H24 | 57 | 14.0 | 30 | 7.4 | 39(68.4%) |
| H25 | 66 | 16.1 | 34 | 8.3 | 49(74.2%) |
| H26 | 59 | 14.5 | 20 | 4.9 | 42(71.2%) |

＊毎年60人前後の新登録患者があり約半数が塗抹陽性患者である。H26年は塗抹陽性患者が少なかったが高齢者で吸引痰塗抹陽性患者が7例あった。＊枚方市の罹患率はほぼ全国平均と同じで大阪府の平均より低い(H25年全国16.1、大阪府26.4)。喀痰塗抹陽性率は全国平均より高い(H25年全国6.38)。＊H25年新登録塗抹陽性患者34人中12人(35.3%)に1ヶ月以上の診断の遅れがあった。＊年齢別では60歳以上が7割を超えている。　　　　　<２６年に取り組んだもの>○中核市1年目であること、また感染症Ｇ保健師のうち感染症業務が初めてまたは2年目の保健師が多いため、今年度は全員が、接触者調査も含め発生から管理終了までの一連の個別支援ができるようになることを重点に、慣れるまでは経験者が同伴訪問をしたり研修の機会があれば参加をし知識の習得に努めた。○結核研究所の研修に参加し、グループ内で共有した。○H25年新登録塗抹陽性患者のうち35.3％に1ヶ月以上の診断の遅れがあった。（胸部エックス線や喀痰検査未実施、肺炎診断で抗生剤投与により軽快後再度悪化し結核診断、呼吸器症状以外で通院はしていたが結核診断が遅れたなどの理由）そのため、早期発見・早期診断のためのリーフレットを作成し、立入時、所長より病院管理者に直接説明の上、手渡しを実施した。○「感染症の予防」をテーマに健康教育の依頼があった際、結核についての啓発を実施した（3ヵ所）。 ①介護相談員連絡会：30人参加　 ②グループホーム世話人研修会：101人参加　 ③デイサービス事業所連絡協議会：68人参加　　<２７年に取り組む予定のもの>○死亡事例をまとめコホート会議で報告・検討する。○既存の資料や今年の患者発生状況より課題を整理し対策を検討する。<今までも継続的にしているものであるが、改善をして効果を上げようと考えているもの> ○診断の遅れ、死亡事例が多いので、継続して事例をまとめ課題を整理し早期発見・早期診断をめざす。○高齢者で有料老人ホーム等に入所している事例が多いので、個別事例発生時に施設職員への啓発をその都度行う。<事業の組み立てだけでなく、人材のスキルアップにつなげるようなもの> ○結核研究所の研修に毎年誰かが参加できるように引き続き予算化する。 |

## **各市の取組（各市の中でのトピックス的な取り組みについて）　　　　　　　　　　　　　　　　　　　大阪府**

|  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- |
| 平成２５年新登録結核患者数 | 　　８０７人 | 平成２６年新登録結核患者数(暫定値) | ６８８人 |
| （1３保健所）　　　り患率 | 　　　１９．８ | （1２保健所） 　　り患率(暫定値) | １８．７ |
| 　【題】外国人結核対策／精神科病院における結核対策の現状に関するｱﾝｹｰﾄ調査 |
| １　外国人結核対策【外国人結核患者数（大阪府保健所管内　新登録患者＋ＬＴＢＩ患者）】　平成21年から25年までの外国人患者数は161人（平成21年37人、平成22年16人、平成23年29人、平成24年37人、平成25年42人）である。　国別では、①中国51人、②ベトナム49人、③フィリピン23人　以下、インドネシア、韓国、タイ等【外国人結核対策の内容】1. 医療通訳

平成23年１０月１日から、外国人患者の面接、服薬支援時等に、日常的な会話に日本語を使用しない結核患者等に対する適切なコミュニケーションが行えるよう医療通訳者を派遣している。対象言語：英語、中国語、韓国語、タイ語、ポルトガル語、フィリピン語（タガログ語）、ベトナム語、台湾語等。NPO法人と契約し、通訳者に対しては事前に結核の学習、IGRA検査を実施している。＜実績＞

|  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- |
| 年度 | 実人数 | 延回数 | 言語 |
| 平成23年度 | 3人 | 4回 | タガログ語 |
| 平成24年度 | 5人 | 9回 | ベトナム語、英語、タイ語 |
| 平成25年度 | 13人 | 27回 | 中国語、ベトナム語、英語、タガログ語、インドネシア語 |
| 平成26年度（１月末） | 9人 | 20回 | 中国語、ベトナム語、英語、タガログ語、インドネシア語 |

1. ハイリスク健診：外国人コミュニティや日本語学校利用者に対するハイリスク健診を実施

＜実績＞　平成25年度：外国人コミュニティ（中国語2回、ベトナム語2回）、日本語学校（中国語１回）　平成26年度：外国人コミュニティ（中国語、ベトナム語　1回）２　精神科病院における結核対策の現状についてのアンケート調査　平成24，25年度連続の精神科病院での結核集団感染事例報告（東京都・大阪府）を受け、精神科病院における現状の把握と結核への関心を高めることを目的に、平成25年7月～26年2月に51か所の精神科医療機関に対しアンケート調査を実施。＜結果抜粋＞　○入院時の胸部XPを実施している医療機関は92.2％　○定期的な検査をしていない医療機関は51か所中6か所　○呼吸器症状がある場合、胸部XPは、ほとんどが実施していたが、喀痰検査のうち抗酸菌検査を実施する体制になっていない医療機関が19か所あった。　○胸部XP読影が主治医と常勤の内科・放射線科医師の読影体制になっているのは9か所。他は非常勤の内科・放射線科医による読影が多く、主治医のみの読影となっている医療機関も3か所あった。＜報告＞平成26年6月に各医療機関に結果を報告するとともに、大阪精神科病院協会の定例会議で結果の報告とともに今後の結核対策についてお願いした。また、管轄保健所に情報提供し連携推進に活用してもらった。（要旨）　○精神科病院での結核患者の発生は少なくないと考えられ、結核対策の必要性は高い　○高齢者や長期入院患者が多い精神科病院では、入院時及び年１回の定期検査を実施することは、院内感染予防に効果があると考える。また、患者の早期発見のため、胸部XP・喀痰検査の適宜導入が望まれる。　○有効な胸部XP検査とするためには、読影体制の強化（内科医・放射線科医による二重読影など）が望ましい。　○コメディカルを含めた病院全体としての研修実施が必要 |